

会議名	令和2年度第2回上下水道事業経営審議会
日時	令和2年7月30日（木） 14:00～15:25
場所	市役所本庁舎低層部4階 全員協議会室
出席委員	木村隆之会長、河野美佐子副会長、石川宗一郎委員、井深正美委員 鷺見守昭委員、箕輪光顕委員、渡辺貴郎委員、武藤豪委員、近藤隆郎委員 服部学委員、瀬瀬晴美委員、葛西裕子委員、山田謙一委員
欠席委員	森健二委員、岡田美津子委員
次第	1 説明事項、報告事項 ・令和元年度の決算状況 ・これまでの水道事業 ・これからの水道事業
議事概要	<p>＜説明事項＞</p> <p>資料1「第2回 上下水道事業経営審議会」及び資料2「上下水道事業 決算資料」により事務局から説明</p> <p>＜説明事項に対する質疑＞</p> <p>（水道・下水道の有収水量について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給水戸数・水洗化戸数が増加しているのにも関わらず、有収水量が減少している要因について質疑があり、利用者の節水意識の向上や節水機器の普及によるものと考えられると回答 <p>（水道の有収率について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度から令和元年度の水道の有収率低下について質疑があり、2年前に策定した計画（岐阜市水道事業有収率改善計画）に基づき、老朽管の布設替えや小ブロック化による管理など中長期的に有収率が改善していくよう取り組んでいると回答 ・有収率の目標について質疑があり、令和2年に策定した岐阜市上下水道事業経営戦略において、令和11年度達成目標として平成30年度実績である74.5%との対比で「改善」としていると回答 ・目標は対策の成果を数値で積み上げたものかとの質疑があり、対策毎の成果を積み上げたものではないが、外部委員等を招いて検討し、有効とされた対策を着実にやっていくことで、長期的に向上を図っていくものと回答 ・委員から、市民は「もったいない」という思いに駆られるとの指摘をした上で、このことが料金値上げにつながることはないよう、しっかりと取り組んでほしいと要望 ・他の委員から、岐阜市の有収率は他市に比べて極めて悪い状況であることを指摘した上で、費用を掛ければ、改善はされていくものと思うが、費用対効果も勘案し、取り組んでほしいと要望

- ・会長から、有収率についてはこれまで当審議会でも議論の対象となってきたところではあるが、改善に結びつく確実な対策はなく、着実に取り組んでいくしかない。当審議会としても、今後もこのことについては注視していくとの総括

(豪雨災害への対応について)

- ・委員から、近年、温暖化等の影響によって、他市町村ではこれまでは想像できないような豪雨災害が発生していることにふれ、その対応について質疑があり、停電により機械設備が停止し、断水することがないように、各水源地に自家発電機を整備する等の取組を進めているほか、強靱化、耐水化にも取り組んでおり、今後の総合的な取組については国等の動向も注視しながら進めていくと回答
- ・委員から、想像を超えるような災害が生じていることを想定し、災害時に水道が使えなくなることをのらないよう、取り組んでほしいと要望

(民間活用について)

- ・資料中、国等の動向として、「広域化・民間活用の推進」が「持続的な経営を確保するための基本的な考え方」として示されていることから、民間活用について岐阜市の考え方について質疑があり、現時点でコンセッション方式のように事業そのものを民間に委託することは考えていないが、それ以外の手法については検討していくと回答

(水道の利用促進について)

- ・委員から、若い世代が専らペットボトル水等を飲み水として、水道水を飲まないという話を聞くが、水道事業においては、投資を行って良質な水の給水に努めており、もっと水道の利用促進に取り組んでいくべきと要望
- ・上下水道事業部で製造していたペットボトル水と水道水の違いと製造をやめた理由について質疑があり、基本的に原水は共通であること、ペットボトルの環境への影響を考慮して製造をやめたと回答